



## 「日本家族看護学会第28回学術集会」の報告と御礼 第28回学術集会 学術集会長 山本則子

「勇気をもって、新たな知の冒険へ」と題して開催された第28回学術集会は、完全オンラインにて開催されました（オンデマンド配信：2021年9月20日～10月20日、ライブ配信：10月2日～3日）。会期中は、合計899名（スタッフ、招待者含む）の参加を得ることができました。ご参加・ご協力いただいた皆さまに、心より御礼申し上げます。

学術集会長講演、特別講演、教育講演はそれぞれ200名以上、各シンポジウムは100名以上の参加者を得ました。交流集会・委員会企画においても、参加者100名を超す企画がいくつもありました。オンラインコミュニケーションツール（oVice）を用いた参加者交流ラウンジは、主に発表後の登壇者と参加者の質疑応答に用いられ、参加者同士の交流にも活用されている様子が窺われました。



会期後の参加者アンケート（回答者97名）では、本学会全体の満足度について、約8割が「大変満足」「まあまあ満足」、参加者交流ラウンジの満足度について、7割以上が「大変満足」「まあまあ満足」と回答しました。「オンライン開催でなければ参加できなかった」「オンデマンド配信があつて助かった」との意見も多く、定員数を設けることなく開催できた企画がほとんどであったため、オンライン開催のメリットも感じることができました。

重ねてとなりますが、皆さまのご協力のおかげで、様々な冒険を取り入れた本学術集会を無事終えることができました。本学術集会により、Withコロナの新しい時代に求められる新たな家族看護学の展望を考える端緒となったことを期待します。

### 研究奨励賞を受賞して

有限会社耕グループ くわのみ訪問看護ステーション 船渡弘子

船渡 弘子, 山口 桂子: 育児中の母親が親介護を担うダブルケア体験のプロセス  
家族看護学研究, 26 (2), 89-104, 2021.



この度は研究奨励賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。

研究を始めた頃はダブルケアという言葉も知られ始めたばかりで、実際にダブルケアを行っている母親も自分が当事者であるという認識もなく、必死に、育児と介護の同時進行に取り組んでおられました。

研究を通じて、ダブルケアを担う母親が、育児と介護の調和へのプロセスを歩んでいることが明らかとなり、母親はダブルケアの先に家族の成長を見据え、ダブルケアという課題を乗り越えようと挑戦していることがわかりました。

今回、母親が介護する姿を見ているからこそ子どもが思いやりを身につけるといふ「ダブルケアの賜物」、家族の絆が強くなるという「家族の成長」といった肯定的側面が発見されたことで家族のもつ強みを深めていく支援の必要性が示唆されました。

研究を進めるにあたり、何度もくじけそうになりました。査読してくださった先生方や編集委員の先生方には、丁寧で的確なご指摘をいただき、掲載されるまで支えてくださり、本当にありがとうございます。いつも励まし、温かくご指導してくださった日本福祉大学山口桂子先生、心から感謝致しております。

あるお母さまの「研究してくれることで、私たちに光をあててくれた」という言葉が心から離れません。

これからも、家族支援の実践と研究に精進して参りたいと思います。

第7回オレンジクロス共催シンポジウム「新たな看護実践の枠組みを創る  
—SCNs (Social community nurses) による看護実践—」の座長を終えて  
東海大学医学部看護学科 井上玲子

高齢化の加速・労働人口の減少・未知の感染症の流行などにより、既存の医療・介護の枠組みだけでは対応できないことが予測される今、地域で新しい取り組みを行っている看護職たち (Social Community Nurses) を紹介する企画で、シンポジウムを開催しました。

一般財団法人オレンジクロスとの共催で90名以上の皆さまに視聴していただき、大変有意義な時間を得ることができました。4名のシンポジストからは、地域住民の目の前の暮らしを支える具体的な取り組みやへき地医療の看護活動、ホームホスピスでの看護役割の紹介や外出支援を支える交通医療という概念など、ワクワクするような活動をご紹介いただきました。このようなエネルギーな看護職たちに向けて、オレンジクロスの理事、田中滋先生からは看護職への期待とエール、今後の示唆をいただきました。まさに第28回の学術集会テーマ「新たな知の冒険」に迫る、看護の実践家たちに新たな発見と気づき、勇気をいただく時間となったのではないのでしょうか？



理事長と語ろう—これからの日本家族看護学会に期待すること  
指定発言者 角田 美穂  
埼玉県立がんセンター

広報委員会の企画により、交流集会「理事長と語ろう—これからの日本家族看護学会に期待すること」が行われました。立場や分野の異なる7名（家族支援専門看護師・看護管理者・遺伝看護（筆者）・産業保健・公衆衛生看護・大学院生・当学会将来構想委員長）の指定発言の後、上別府圭子理事長よりそれぞれに対する考えが述べられました。

近年、がん医療の現場では、治療や予防へのゲノム情報の活用が拡大し、全ての診療科で対応が必要になりました。遺伝性のがんの診断は、患者のみならずその血縁者にも有用で、遺伝情報共有を支援するための家族内における関係性のアセスメント等、家族看護のアプローチが必要だと考えます。

このように、家族看護のニーズは遺伝医療や産業保健等幅広い分野に存在し、家族看護の教育・実践・研究に反映されることの重要性が共有されました。また、家族支援CNSの価値や意義、配置の必要性、期待される役割について活発な意見交換がなされました。看護領域の専門分化の中で、他分野・同種分野のスペシャリストとの協働により、対象者のメリットが増え、家族支援CNSの専門性が明らかに示せると感じました。家族支援CNSの診療報酬加算を目指した検討が進むことを期待します。

日本家族看護学会 第29回学術集会  
The 29th Annual Conference of Japanese Association for Research in Family Nursing  
家族のものを語りを紡ぐ  
～現場発信の家族看護～  
2022年9月10日 [土]・11日 [日]  
学術集会長 濱田 裕子 第一薬科大学看護学部教授

	事前参加	当日参加
会員	9,000円	10,000円
非会員	10,000円	11,000円
学生 (既生を除く)	1,000円	2,000円

※状況によりWEB等開催方法が変更になる場合があります。

一般社団法人化に向けて

日本家族看護学会は、総会の決議を経て、2022年4月から一般社団法人に生まれ変わります。日本家族看護学会は国際家族年であった1994年10月1日に設立されました。27年間を経て、法人格を持った組織となります。法人格を持つことで、社会的な信用が上がると考えられます。一般社団法人となる日本家族看護学会の活動に、より一層のご参加をお願い致します。

日本家族看護学会第29回学術集会のご案内

テーマ：家族のものを語りを紡ぐ ～現場発信の家族看護～  
学術集会長：濱田 裕子（第一薬科大学看護学部 教授）  
会期：2022年9月10日(土)～11日(日)  
会場：福岡国際会議場（福岡県福岡市）  
演題募集期間：2022年2月7日 [月]～4月28日 [木] 正午  
詳しくは学会ホームページをご覧ください。  
<https://www.jarfn29.org/index.html>

<編集後記> ニュースレター第17号が皆様のお手元に届く頃には、寒さもひとしお身にしむ年の瀬と思います。今回は、2回目のWEB開催となりました第28回学術集会に関連した記事を中心に企画しました。本学術集会では、「勇気をもって、新たな知の冒険へ」というテーマを随所で実感しました。さらに、本号に御寄稿下さいました内容から、家族看護実践と家族看護学の発展への期待がより一層膨らみました。企画・作成にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。2022年9月には福岡で皆様とお目にかかれそうですようコロナが収束に向かうことを祈るばかりです。 担当委員：根岸茂登美 委員長：荒木田美香子